

第4章 共通工

| | | |
|-----|-----------------|------|
| 4-1 | 法枠工 | |
| (1) | プレキャスト法枠工 | 4-1 |
| (2) | 現場吹付法枠工 | 4-2 |
| 4-2 | 吹付工 | 4-5 |
| 4-3 | 植生工 | 4-6 |
| 4-4 | コンクリート矢板工 | 4-7 |
| 4-5 | コンクリートブロック積(張)工 | 4-8 |
| 4-6 | 擁壁工 | |
| (1) | プレキャスト擁壁工 | 4-12 |
| (2) | 補強土壁工 | 4-13 |
| (3) | アンカー式自然石空積工 | 4-18 |
| 4-7 | 構造物とりこわし工 | |
| (1) | 構造物とりこわし工 | 4-19 |
| (2) | 骨材再生工 | 4-20 |
| 4-8 | ネットフェンス設置・撤去工 | |
| (1) | ネットフェンス設置工 | 4-21 |
| (2) | ネットフェンス撤去工 | 4-23 |

第4章 共 通 工

4-1 法 枠 工

(1) プレキャスト法枠工

プレキャストブロックによる法枠工に適用する。

1) 数量算出項目

プレキャストブロック、中詰等の数量を区分ごとに算出する。

表4-1 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 | | 中 詰 | 規 格 | 単 位 | 数 量 | 備 考 |
|------------|--------------|-----|----------------|----------------|-----|---------------|
| 項 目 | | 種 類 | | | | |
| プレキャストブロック | | ○ | ○ | m ² | | 中詰面積を含めた面積とする |
| 敷砂利 | | ○ | ○ | m ³ | | 必要な場合算出 |
| 中 詰 | 中 詰 フ ` ロック | × | ○ | m ² | | 法枠面積を含めた面積とする |
| | 客 土 | × | ○ | m ³ | | |
| | 中 詰 張 コンクリート | × | ○ | m ³ | | |
| | 中 詰 張 芝 | × | ○ | m ² | | |
| | 植 生 土 の う | × | ○ | 袋 | | |
| | 割 石 又 は 栗 石 | × | ○ | m ³ | | |
| 砕 石 | × | ○ | m ³ | | | |

- (注) 1. プレキャストブロックについては、アンカー及び吸出防止材の有無に区分し算出する。
 2. プレキャストブロック及び中詰ブロックについては、1 m²当りプレキャストブロック
 使用量(個)も算出する。
 3. 中詰ブロックについては、段数(1~2段 or 2段を超える)ごとに区分し算出する。
 4. 足場工が必要な場合は別途算出する。
 5. 法面清掃工が必要な場合は別途算出する。

2) 数量算出方法

数量の算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか下記の方法によるものとする。

①プレキャスト法枠

プレキャスト法枠の数量は、中詰面積を含めた面積を算出する。
 プレキャスト法枠の材料は、種類に応じて使用量(個)を算出する。

②中詰ブロック

中詰ブロックの数量は、中詰ブロックの使用量(法枠面積100m²当り)及び法枠面積を含めた全
 体面積を算出する。

(2) 現場吹付法枠工

金網メッシュ、プラスチック、段ボール等の自由に変形可能な型枠鉄筋のプレハブ部材を用い鉄筋を含む吹付枠工に適用する。

1) 数量算出項目

吹付枠、ラス張、水切モルタル・コンクリート、表面コテ仕上げ、法面清掃、枠内吹付・中詰等の数量を区分毎に算出する。

表4-2 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 | | 規格 | 法面の 垂直高 | 単位 | 数量 | 備 考 |
|---------------|--------|----|------------|----------------|----|----------------------|
| 項 目 | | | | | | |
| 吹付枠 | | ○ | ○ | m | | 目地が必要な場合は別途算出する。 |
| ラス張 | | × | × | m ² | | 必要に応じて計上する。 全面積対象 |
| 水切モルタル・コンクリート | | × | × | m ³ | | 必要に応じて計上する。 |
| 表面コテ仕上げ | | × | × | m ² | | 〃 |
| 法面清掃 | | × | × | m ² | | 必要に応じて計上する。 全面積対象 |
| 枠内吹付 枠内中詰 | モルタル | ○ | ○ | m ² | | 必要に応じて計上する。 |
| | コンクリート | ○ | ○ | m ² | | 〃 |
| | 植生基材 | ○ | ○ | m ² | | 〃 |
| | 枠内中詰 | ○ | ○ | 各種 | | 〃 |

(注) グランドアンカーは、「第16章仮設工 16-14 アンカー工」、ロックボルトは、「第16章仮設工 16-15 鉄筋挿入工 (ロックボルト工)」により必要に応じて別途算出すること。

①吹付枠の規格による区分

吹付枠の規格による区分は、下表のとおりとする。

| 区 | | 分 | | |
|------|---------------------|-----|---------|--|
| 吹付法枠 | コンクリート ・ モルタル | 梁断面 | 150×150 | 枠材固定に使用する主アンカー (アンカーバー) 及び、補助アンカー (アンカーピン) の長さ (m) アンカー長は、1 m以内と1 mを超えるものに区分して算出する。 |
| | | | 200×200 | |
| | | | 300×300 | |
| | | | 400×400 | |
| | | | 500×500 | |
| | | | 600×600 | |

②法面の垂直高等による区分

法面の垂直高等による区分は、下表のとおりとする。

| 項目 | 法面の垂直高等による区分 |
|-----|---|
| 吹付枠 | 垂直高さが4.5 m以下かつ吹付ホース延長100 m以下の部分の法枠長 |
| | 垂直高さが4.5 mを超える部分または吹付ホース延長100 mを超える部分の法枠長 |

2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか下記の方法によるものとする。

①吹付枠

吹付枠の数量は、コンクリート吹付及びモルタル吹付のそれぞれの施工延長を算出する。

②ラス張

ラス張の数量は、全面積を対象とし、必要に応じ算出する。

③水切モルタル・コンクリート

水切モルタル・コンクリートの数量は、必要に応じ体積を算出する。

④表面コテ仕上げ

表面コテ仕上げの数量は、必要に応じ面積を算出する。

⑤法面清掃

法面清掃の数量は、全面積を対象とし、必要に応じ算出する。

⑥枠内吹付

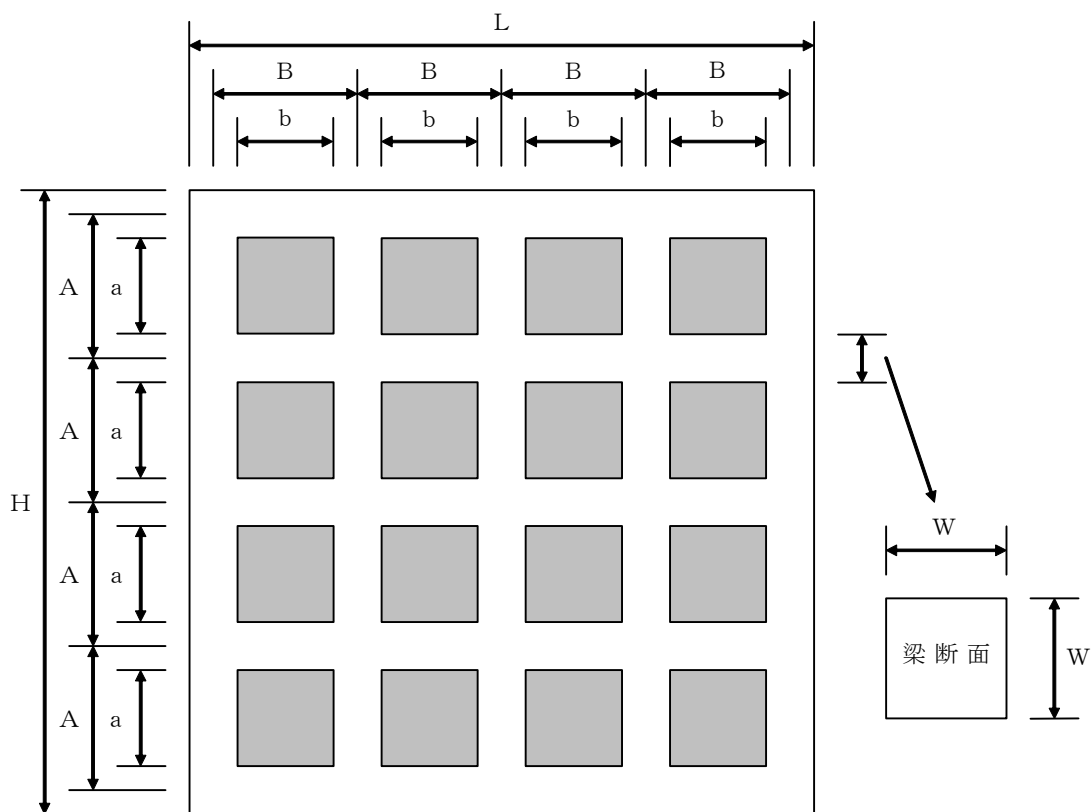
枠内吹付の数量は、4-2吹付工、4-3植生工により必要量を算出する。

⑦枠内中詰

枠内中詰の数量は、4-1(1)プレキャスト法枠工により必要量を算出する。

(設計量算出例)

法枠長を計上する際の梁の延長は、下記を基本とする。



計算方法

$$\text{縦枠} : H \times \{(L - W) \div B + 1\}$$

$$\text{横枠} : b \times \{(L - W) \div B\} \times \{(H - W) \div A + 1\}$$

4-2 吹付工

モルタル吹付、コンクリート吹付工に適用する。

1) 数量算出項目

モルタル吹付、コンクリート吹付の面積を区分ごとに算出する。

表4-3 数量算出項目区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 吹付厚さ | 垂直高 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|------|-----|----------------|----|------|
| モルタル吹付 | ○ | ○ | m ² | | 金網有無 |
| コンクリート吹付 | ○ | ○ | m ² | | 金網有無 |

- (注) 1. モルタル吹付、コンクリート吹付の補強鉄筋 (kg/m²) が必要な場合は別途算出する。
また、金網 (m²) は、菱形金網と溶接金網で区分して算出する。
2. 通常の吹付と枠内吹付に区分して算出する。

①吹付厚さ区分

吹付厚さ (cm) ごとに区分して算出する。

②垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

| 垂直高区分 |
|-----------|
| 4.5 m以下 |
| 4.5 mを超える |

(注) 垂直高は、施工基面 (機械設置面) からの高さとする。

4-3 植 生 工

植生基材吹付工、客土吹付工、種子散布工、植生マット工、植生シート工、植生筋工、筋芝工、芝付工、市松芝工、人工芝付工、野芝種子吹付工、繊維ネット工に適用する。

1) 数量算出項目

植生基材吹付、客土吹付、種子散布、植生マット、植生シート、植生筋、筋芝、芝付、市松芝、人工芝付、野芝種子吹付、繊維ネットの面積を区分ごとに算出する。

表4-4 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 項 目 | 吹付厚さ | 種子配合 | 垂直高 | 単位 | 数量 | 備 考 |
|------------|------|------|-----|----------------|----|----------|
| 植生基材吹付 | ○ | ○ | ○ | m ² | | (注) 1 |
| 客 土 吹 付 | ○ | ○ | ○ | m ² | | |
| 種 子 散 布 | × | ○ | ○ | m ² | | |
| 植 生 マ ッ ト | × | ○ | × | m ² | | |
| 植 生 シ ー ト | × | ○ | × | m ² | | (注) 2 |
| 植 生 筋 | × | × | × | m ² | | (注) 3 |
| 筋 芝 | × | × | × | m ² | | (注) 3 |
| 芝 付 | × | × | × | m ² | | (注) 3, 4 |
| 市 松 芝 | × | × | × | m ² | | (注) 4 |
| 人 工 芝 付 | × | × | × | m ² | | |
| 野芝種子吹付 | × | × | × | m ² | | (注) 5 |
| 繊維ネット | × | × | × | m ² | | (注) 6 |

- (注) 1. 植生基材吹付については、通常の吹付と砕内吹付に区分して算出する。また、施工基面（機械設置基面）から上面への施工か、下面への施工であるかを区分して算出する。
2. 植生シートについては、標準品と特殊品（分解〔腐食〕型及び循環型〔間伐材等使用〕）に区分して算出する。
3. 植生筋、筋芝、芝付は、芝の総面積ではなく、対象となる法面の面積を算出する。
4. 市松芝は平面部、法面部に区分して算出するものとするが、芝付については平面部、法面部に区分せず合計を算出する。
5. 被覆シート張工が必要な場合は、別途算出する。
6. 繊維ネットは、肥料袋の有無でも区分して算出する。

①垂直高区分

法面の垂直高による区分は、下表のとおりとする。

| 項 目 | 法面垂直高による区分 | | |
|--------|------------|----------------|-----------|
| 植生基材吹付 | ①4.5m以下 | ②4.5mを超え8.0m以下 | ③8.0mを超える |
| 客土吹付 | ①2.5m以下 | ②2.5mを超える | |
| 種子散布 | ①3.0m以下 | ②3.0mを超える | |

(注) 垂直高は、施工基面（機械設置基面）からの高さとする。

4-4 コンクリート矢板工

コンクリート矢板を、施工する場合に適用する。

1) 数量算出項目

コンクリート矢板の延長、枚数を区分ごとに算出する。

表4-5 数量算出項目区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 打込長 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|-----|----|----|----|----|
| 延長 | ○ | ○ | m | | |
| 枚数 | ○ | ○ | 枚 | | |

①打込長

コンクリート矢板の延長と枚数を打込長ごとに区分して算出する。
なお、打込長ごとに最大N値を明記する。

②規格区分

規格による区分は、下表のとおりとする。

| |
|---------|
| 規格区分 |
| B=50cm |
| B=100cm |

4-5 コンクリートブロック積（張）工

コンクリートブロック積工、コンクリートブロック張工に適用する。

1) 数量算出項目

コンクリートブロック積、コンクリートブロック張、基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止の数量を区分ごとに算出する。

表4-6 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック積（ブロック質量 150kg/個未満）

| 区 分 項 目 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備 考 |
|-------------|----|----|----------------|----|-------|
| ブロック積 | ○ | ○ | m ² | | |
| 胴込・裏込材 | ○ | × | m ³ | | (注) 4 |
| 胴込・裏込コンクリート | | | m ³ | | (注) 5 |
| 鉄筋 | | | t | | |
| 目地材 | | | m ² | | |

- (注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 胴込材の数量算出については、積算基準 標準歩掛 2. 共通工 ④コンクリートブロック積（張）工 表4. 1により算出すること。なお、裏込材については施工箇所ごとに別途算出すること。
 5. 胴込・裏込コンクリートの算出については、積算基準 標準歩掛 2. 共通工 ④コンクリートブロック積（張）工 表4. 3により算出すること。
 6. 吸出防止材及び水抜パイプの有無についても記載すること。

表4-7 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック張（ブロック規格 50cm×50cm以下）

| 区 分 項 目 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備 考 |
|-------------|----|----|----------------|----|-----|
| ブロック張 | ○ | ○ | m ² | | |
| 胴込・裏込材 | ○ | × | m ³ | | |
| 胴込・裏込コンクリート | | | m ³ | | |
| 目地材 | | | m ² | | |

- (注) 1. コンクリートブロック張工は、勾配が1：1以上の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 吸出防止材及び水抜パイプ及び目地モルタルの有無についても記載すること。

表4-8 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック積（ブロック質量 150kg/個以上 2,600kg/個以下）

| 項目 | 区分 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備考 |
|-------------|----------------|----|----|----------------|-------|----|
| ブロック積 | | ○ | ○ | m ² | | |
| 胴込・裏込材 | | ○ | × | m ³ | | |
| 胴込・裏込コンクリート | m ³ | | | | (注) 4 | |
| 鉄筋 | t | | | | | |
| 目地材 | m ² | | | | | |

- (注) 1. コンクリートブロック積工は、勾配が1：1未満の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 胴込コンクリートの数量算出については、積算基準 積算参考歩掛 2. 共通工 ③大型ブロック積（張）工 表3. 8により算出すること。なお、裏込コンクリートについては施工箇所ごとに別途算出すること。
 5. 吸出防止材及び水抜パイプの有無についても記載すること。

表4-9 数量算出項目区分一覧表 コンクリートブロック張（ブロック質量 150kg/個以上 770kg/個以下）

| 項目 | 区分 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備考 |
|-------------|----------------|----|----|----------------|-----------|----|
| ブロック張 | | ○ | ○ | m ² | | |
| 胴込・裏込材 | | ○ | × | m ³ | | |
| 胴込・裏込コンクリート | m ³ | | | | | |
| 遮水・止水シート | m ² | | | | (注) 4 | |
| 連結金具 | 個 | | | | 平ブロックの場合 | |
| 連節鉄筋（鋼線） | t | | | | 連節ブロックの場合 | |
| 目地材 | m ² | | | | | |

- (注) 1. コンクリートブロック張工は、勾配が1：1以上の場合である。
 2. 施工箇所が点在する場合は、その施工箇所ごとに区分し、河川護岸においてはさらに低水・高水護岸に区分して算出する。
 3. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 4. 10m²当り数量も算出すること。
 5. 吸出防止材及び水抜パイプ及び目地モルタルの有無についても記載すること。

表4-10 数量算出項目区分一覧表 基礎コンクリート、天端コンクリート

| 項目 | 区分 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|----------------|----|----|----|----|----|
| 基礎コンクリート | | ○ | × | m | | |
| 天端コンクリート | m ³ | | | | | |
| 型枠 | m ² | | | | | |
| 目地材 | m ² | | | | | |
| 基礎砕石 | m ² | | | | | |

- (注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 2. 基礎コンクリートは体積（m³）も算出すること。

表4-11 数量算出項目区分一覧表 小口止コンクリート

| 項目 | 区分 | 規格 | 構造 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------|----|----|----|----------------|----|----|
| 小口止 | | ○ | × | m | | |
| 型枠 | | | | m ² | | |
| 目地材 | | | | m ² | | |
| 基礎碎石 | | | | m ² | | |

- (注) 1. 必要に応じて数量を各項目ごとに算出する。
 2. 小口止は体積 (m³) も算出すること。

①規格区分

コンクリートブロック積、コンクリートブロック張は、ブロックの種類、質量、形状及び大きさごとに区分して算出する。

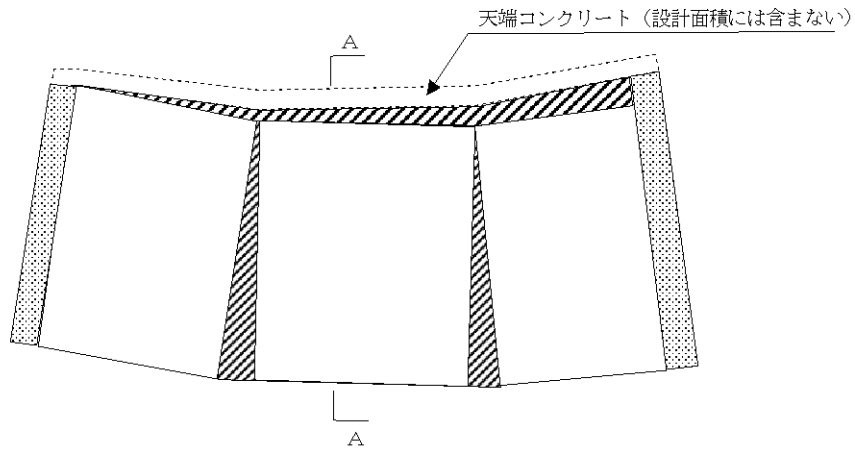
基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止コンクリートは、形状及び寸法ごとに区分して算出する。

②構造区分

空積 (張) 及び練積 (張) に区分して算出する。

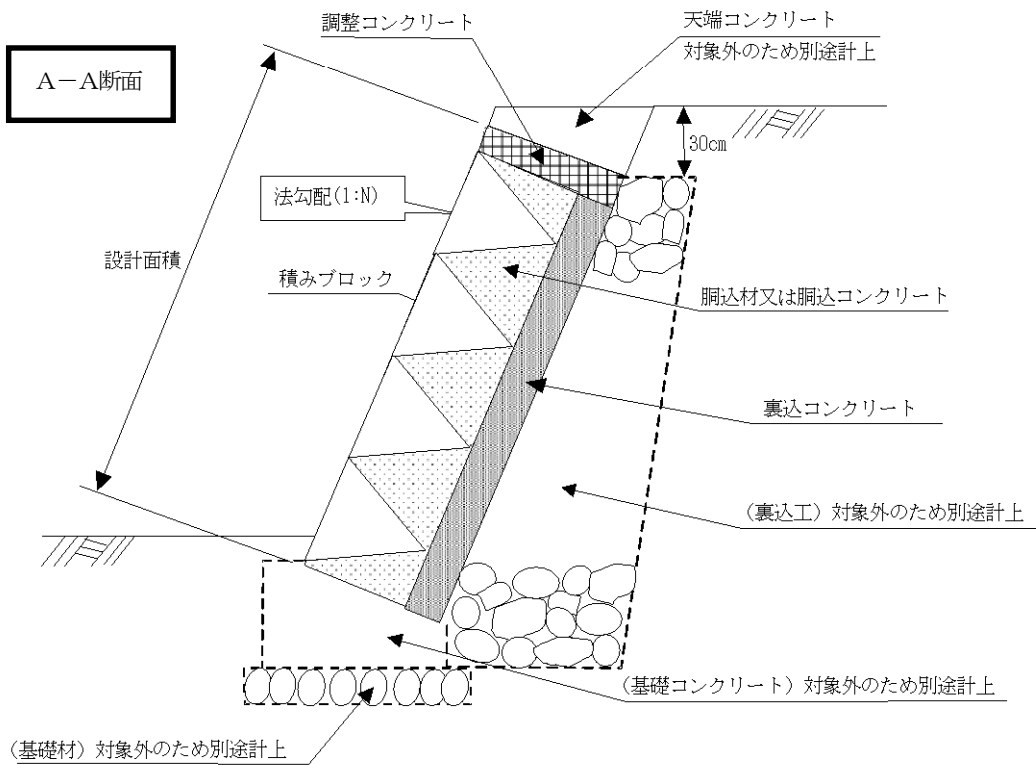
2) コンクリートブロック積工（ブロック質量 150 kg/個未満）の場合の参考図

正面図



- ブロック本体
 - 調整コンクリート
 - 小口止 (設計面積には含まない)
- } 設計面積

A-A断面



※ (小口止) 対象外のため別途計上

4-6 擁壁工

(1) プレキャスト擁壁工

プレキャスト擁壁の設置に適用する。

1) 数量算出項目

プレキャスト擁壁の延長を区分ごとに算出する。

表4-13 数量算出項目区分一覧表

| 項目 | 区分 | 擁壁高さ | 基礎碎石の有無 | 均しコンクリートの有無 | 単位 | 数量 | 備考 |
|----------|----|------|---------|-------------|----|----|----|
| プレキャスト擁壁 | | ○ | ○ | ○ | m | | |

(注) 1. 床掘、埋戻しは別途算出する。

2. プレキャスト擁壁高さが0.5m未満または5.0mを超える場合は、基礎碎石、均しコンクリート、敷きモルタル、目地モルタル、排水材等その他必要な項目の数量を適正に算出すること。

① 擁壁高さ区分

プレキャスト擁壁ブロックの高さによる区分は、下表のとおりとする。

| 擁壁高さ区分 |
|---------------|
| 0.5m以上1.0m以下 |
| 1.0mを超え2.0m以下 |
| 2.0mを超え3.5m以下 |
| 3.5mを超え5.0m以下 |

② 基礎碎石の有無

基礎碎石の有無について区分する。

③ 均しコンクリートの有無

均しコンクリートの有無について区分する。

(2) 補強土壁工

1. 補強土壁工（帯鋼補強土壁、アンカー補強土壁）

補強土壁工（帯鋼補強土壁(1)、帯鋼補強土壁(2)、アンカー補強土壁）においてコンクリート製壁面材（帯鋼補強土壁工においては、薄型壁面材を含む）によるものに適用する。

1) 数量算出項目

補強土壁工の施工面積、補強土壁基礎を区分ごとに算出する。

表4-14 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 項 目 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|----|----------------|----|----|
| 補強土壁 | ○ | m ² | | |
| 補強土壁基礎 | ○ | m | | |

2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか、下表の方法によるものとする。

①補強土壁の内訳は下表の項目で算出する。

| 区 分 項 目 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|----|-----------------|----|-------|
| 壁面材 | ○ | m ² | | (注) 2 |
| 補強材 | ○ | m | | |
| 補強土壁工盛土 | ○ | m ³ | | |
| 天端コンクリート | ○ | m ³ | | |
| 天端鉄筋 | ○ | t | | |
| 天端型枠 | × | m ² | | |
| 足場 | ○ | 掛m ² | | |
| 暗渠排水管据付 | ○ | m | | |
| フィルター材 | ○ | m ³ | | |

(注) 1. 補強土壁面積に対するものとする。

2. 壁面材種類（帯鋼補強土壁工(1)、帯鋼補強土壁(2)、アンカー補強土壁）について備考欄に明記する。

②補強土壁基礎の内容は下表の項目で算出する。

| 区 分 項 目 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|----|----------------|----|----|
| 基礎碎石 | ○ | m ³ | | |
| 基礎コンクリート | ○ | m ³ | | |
| 基礎型枠 | × | m ² | | |

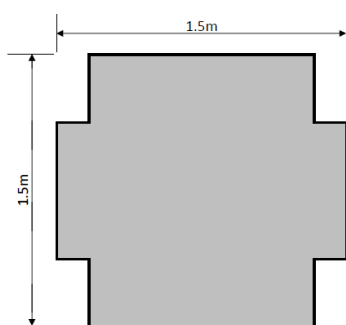
(注) 補強土壁基礎に対するものとする。

3) 参考図等

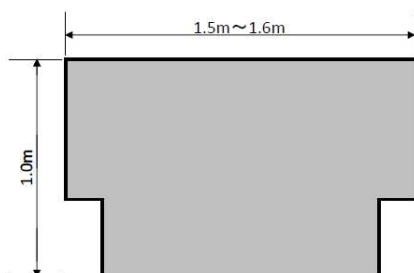
帯鋼補強土壁・アンカー補強土壁における壁面材・補強材の標準仕様

| 工 種 | 帯鋼補強土壁 | | アンカー補強土壁 |
|-----------|---|--------------------------------------|---|
| | 帯鋼補強土壁 (1) | 帯鋼補強土壁 (2) | |
| 標準壁面形状 | 十字型の1.5m×1.5m (高さ×長さ) | 長方形の1.2m×2.7m (高さ×長さ) | 1.0m×1.5~1.6m (高さ×長さ) |
| 補 強 材 | ストリップ幅：60~80mm | ストリップ幅：80mm | 規格：SS400、SS490 |
| 壁 面 材 強 度 | コンクリート設計基準強度： 21~30N/mm ² | コンクリート設計基準強度： 30N/mm ² | コンクリート設計基準強度： 30N/mm ² 、40N/mm ² |
| 盛 土 | 1層仕上り厚さ：25cm | 1層仕上り厚さ：30cm | 1層仕上り厚さ：25cm |

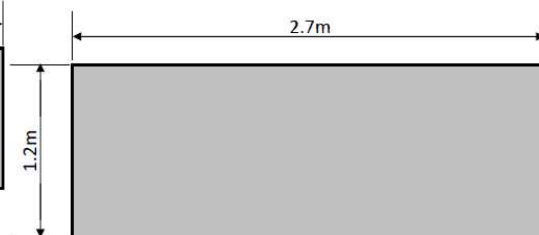
各工種の標準壁面形状



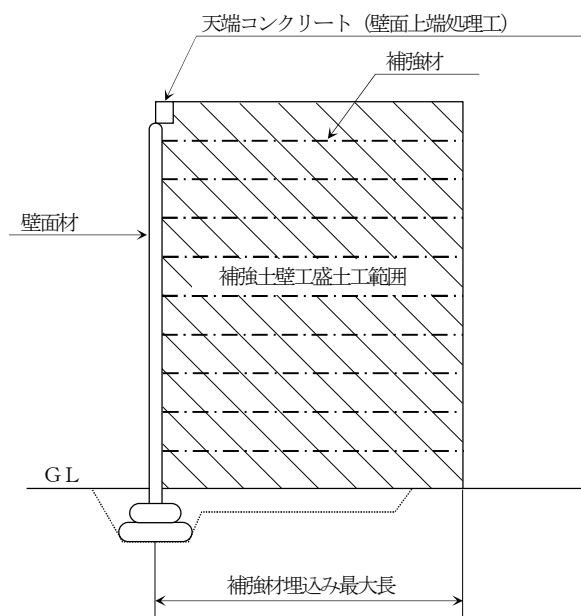
帯鋼補強土壁 (1) 正面図



アンカー補強土壁正面図



帯鋼補強土壁 (2) 正面図



- (注) 1. 補強土壁工盛土工範囲以外の盛土については、「第2章土工」により算出するものとする。
 2. 天端コンクリート等、壁面上端処理工の施工において足場を必要とする場合は、別途考慮するものとする。

2. 補強土壁工（ジオテキスタイル工）

ジオテキスタイル（ジオグリット、ジオネット、織布、不織布）を用いた補強土壁工及び盛土補強工に適用する。

1) 数量算出項目

壁面材の施工面積及びジオテキスタイルの敷設面積区分ごとに算出する。

表4-15 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 項 目 | 材料規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|------|----------------|----|----|
| 壁面材 | ○ | m ² | | |
| ジオテキスタイル | ○ | m ² | | |

2) 数量算出方法

数量算出は、「第1章適用範囲及び共通事項」によるほか、下表の方法によるものとする。

①補強土壁の内訳は下表の項目で算出する。

| 区 分 項 目 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|----|-----------------|----|----------|
| 壁面材 | ○ | m ² | | (注) 1, 2 |
| 天端コンクリート | ○ | m ³ | | |
| 天端鉄筋 | ○ | t | | |
| 天端型枠 | ○ | m ² | | |
| 足場 | ○ | 掛m ² | | |
| 暗渠排水管据付 | ○ | m | | |
| フィルター材 | ○ | m ³ | | |

(注) 1. 壁面材の100m²当り使用量を備考欄に明記する。

2. 壁面材において、鋼製ユニット及び土のう（植生土のう）については直面積、植生マットについては斜面積とする。

②ジオテキスタイルの内訳は下表の項目で算出する。

| 区 分 項 目 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|------------|----|----------------|----|----------|
| ジオテキスタイル敷設 | × | m ² | | (注) 1 |
| ジオテキスタイル材料 | ○ | m ² | | (注) 2 |
| 盛土材 | ○ | m ³ | | (注) 3, 4 |

(注) 1. ジオテキスタイル敷設面積の算出にあたっては、「3) 参考図ジオテキスタイル工標準断面図」を使用する。

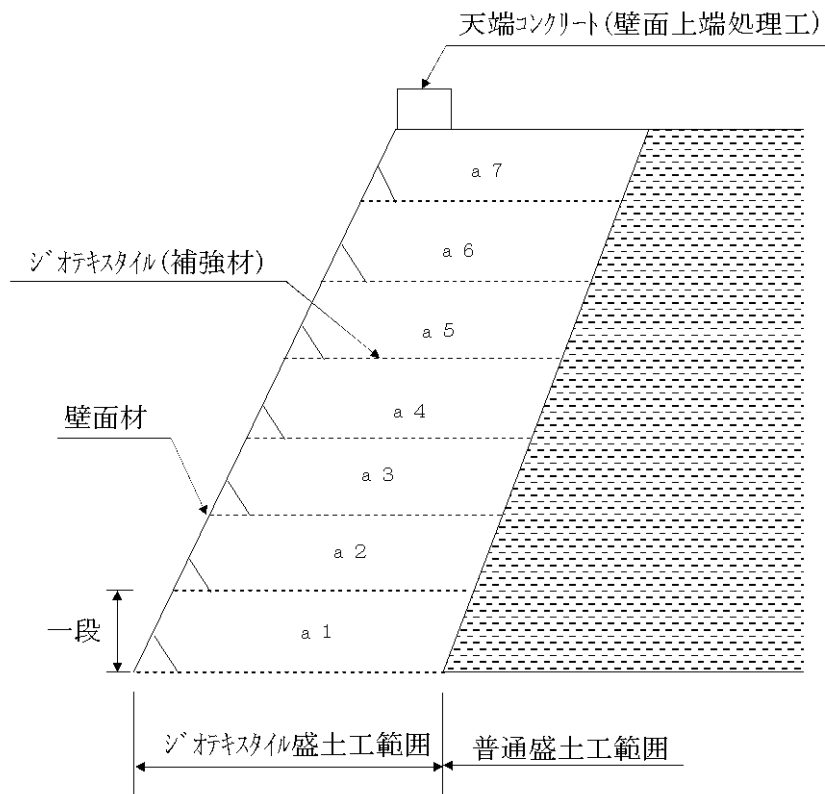
2. ジオテキスタイル材料面積は、巻き込み部、重ね合わせ等を含んだ必要面積を算出する。

3. ジオテキスタイル工盛土工範囲の数量を算出する。

4. 盛土材においては、一層当りの施工高を規格に記載する。

3) 参考図

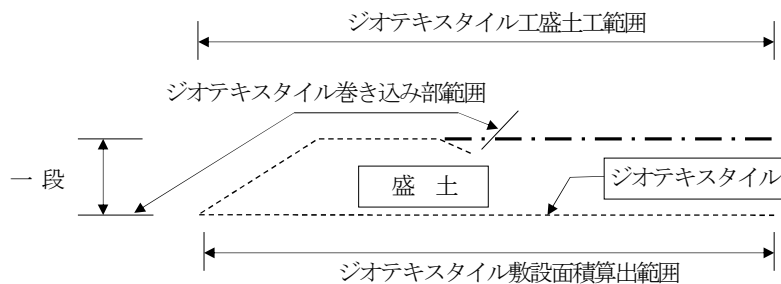
(1) ジオテキスタイル工標準断面図



- (注) 1. ジオテキスタイルの敷設面積については、次式のとおりとする。

$$\text{ジオテキスタイル敷設面積} = a_1 + a_2 + a_3 + \dots \quad (\text{m}^2)$$

$$a_1, a_2, a_3 \dots \text{ジオテキスタイル工1段当り敷設面積} (\text{m}^2)$$
 2. ジオテキスタイル一段当り敷設面積は、ジオテキスタイル工盛土工範囲における、1段当りの底面積を算出するものとし、巻き込み面積は含まないものとする。



3. 一段当りの施工高さは1.5mまでとする。
 4. ジオテキスタイル工盛土工範囲以外の普通盛土工については、第2章土工により算出するものとする。
 5. 天端コンクリート等、壁面上端処理工の施工において足場を必要とする場合は、別途考慮するものとする。

(2) 施工法別参考図

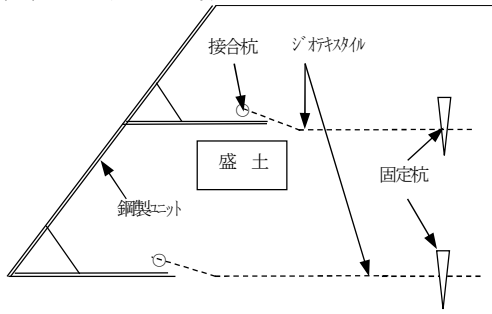


図 A 鋼製ネット工法参考図

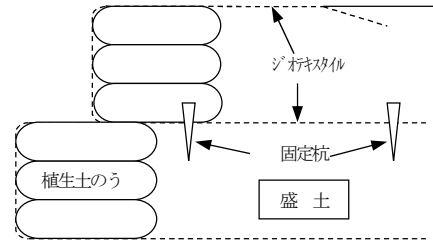


図 B 巻き込み工法（植生土のう）参考図

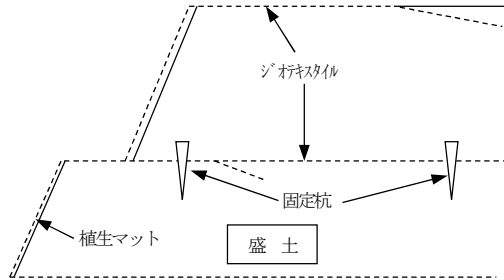


図 C 巻き込み工法（植生マット）参考図

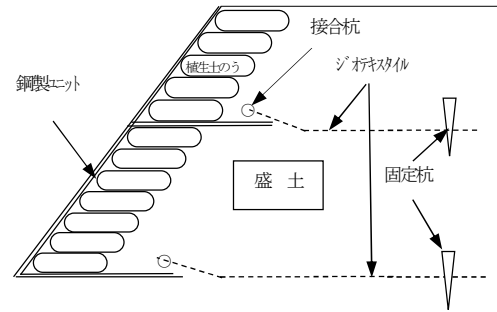


図 D 鋼製ネット+植生土のう工法参考図

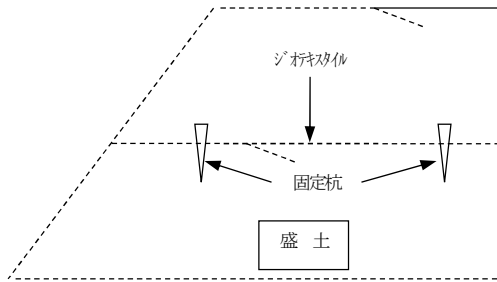


図 E 巻き込み工法（壁面材なし）参考図

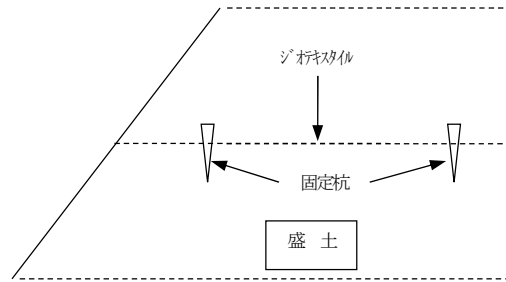


図 F 普通敷設工法（壁面材なし）参考図

(3) アンカー式自然石空積工

アンカー部材を連結させた自然石φ300mm内外(200~400mm)の据付作業に適用する。

1) 数量算出項目

アンカー式自然石空積工の面積を区分ごとに算出する。

表4-16 数量算出項目区分一覧表

| 項目 | 区分 | 材料 | アンカー規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|-------------|----|----|--------|----------------|----|----|
| アンカー式自然石空積工 | | ○ | ○ | m ² | | |

(注) 1 基礎コンクリート、天端コンクリート、小口止コンクリートは、4-5コンクリートブロック積(張)工により、別途算出する。

2 計上する面積は、2) 参考図に示す範囲(設計上面積)とする。

① 材料区分

材料による区分は、下表のとおりとする。

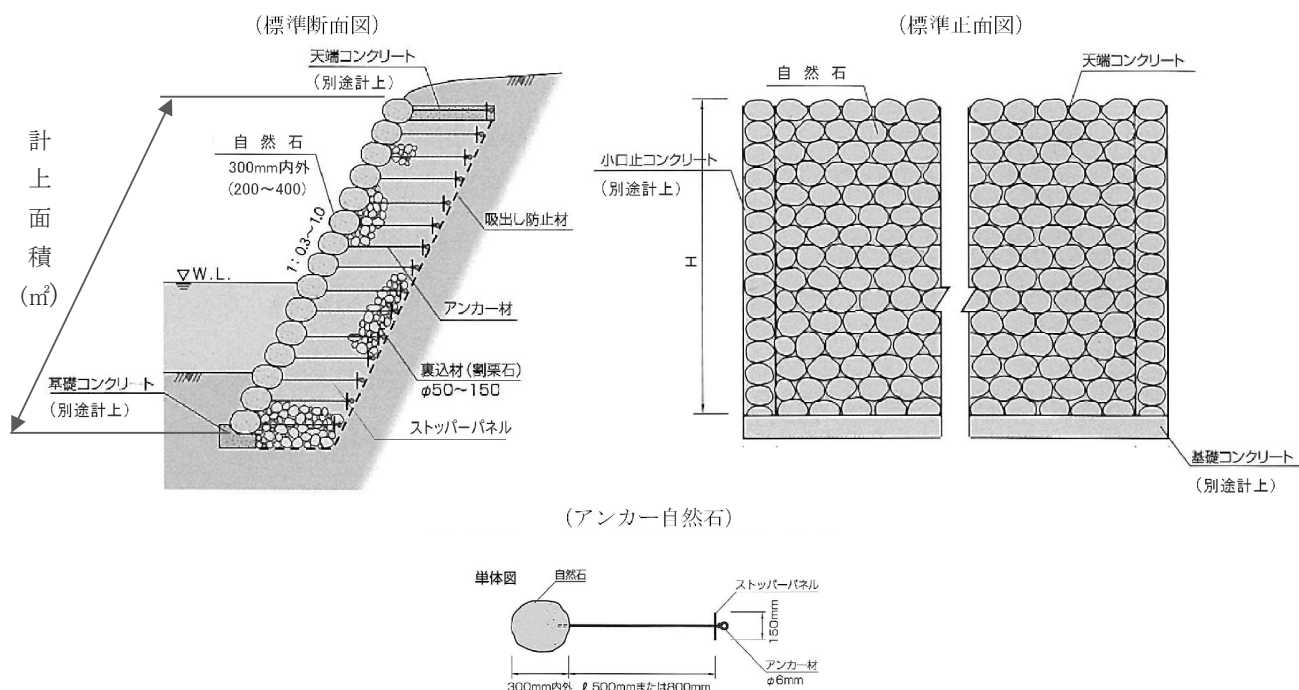
| |
|------|
| 材料区分 |
| 現場製作 |
| 工場製作 |

② アンカー規格区分

アンカー規格による区分は、下表のとおりとする。

| |
|--------|
| アンカー規格 |
| 500型 |
| 800型 |

2) 参考図



4-7 構造物とりこわし工

(1) 構造物とりこわし工

土木工事におけるコンクリート構造物等のとりこわし工に適用する。
ただし、建築物及び舗装版のとりこわし工には適用しない。

1) 数量算出項目

コンクリート構造物等のとりこわしの数量を区分ごとに算出する。

表4-17 数量算出項目区分一覧表

| 項目 | 区分 | 種別 | 形状 | 単位 | 数量 | 備考 |
|--------------------|---------------|---------------|----------------------|----------------------------------|-----|---|
| コンクリート 構造物とりこわし | | 無筋構造物 | — | m ³ | | (注) 4, 5 |
| | | 鉄筋構造物 | — | m ³ | | (注) 4, 5 |
| 石積 とりこわし | 練積 | | 控 35 cm以上 45 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | | | 控 25 cm以上 60 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | 空積 | | 控 45 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | | | 控 45 cm以上 60 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | | | 控 60 cm以上 90 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | | | 控 20 cm以上 60 cm未満 | m ³ m ² | () | |
| | コンクリート はつり | コンクリート 構造物 | 厚さ 3 cm以下 | m ³ m ² | () | |
| | | | 厚さ 3 cmを超え 6 cm以下 | m ³ m ² | () | |
| 吹付法面 とりこわし | | モルタル | 厚さ 5 cm以上 15 cm以下 | m ³ m ² | () | 法面高さ 5 mを超 えるもの 5 m以下 のもので区分し数 量を算出する。 |

- (注) 1. 形状の範囲外の場合も区分して算出する。
 2. C o塊等を工事区間外へ搬出する場合は、運搬距離についても算出する。
 3. とりこわし数量 (m³) については、とりこわす前の数量とする。
 4. コンクリート構造物とりこわしにおいて、施工基面 (機械設置基面) より上下 5 mを
 超える場合については、区分して算出する。
 5. 鉄筋を有する構造物 (用心鉄筋を有する構造物を含む) は、鉄筋構造物とする。
 6. 人力とりこわしと機械とりこわしに区分し算出する。

(2) 骨材再生工

自走式破碎機によるコンクリート殻（鉄筋有無）の破碎作業で骨材粒度0～40mmの骨材再生工（自走式）に適用する。

1) 数量算出項目

骨材再生の数量を区分ごとに算出する。

表4-18 数量算出項目区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 規格 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|----|----------------|----|----|
| 骨材再生工 | ○ | m ³ | | |

- (注) 1. 骨材再生工は、破碎前の殻処理量を規格（殻投入寸法600mm以下、600mm超え）ごとに区分して算出する。
2. 骨材再生により、鉄屑が発生する場合は、鉄屑質量（t）を算出する。
3. 計上数量は、取壊し前の構造物の状態に相当する容積とする。

4-8 ネットフェンス設置・撤去工

(1) ネットフェンス設置工

ネットフェンスの設置に適用する。

1) 数量算出項目

ネットフェンス本体、ネットフェンス門扉の設置数量を区分ごとに算出する。

表4-19 数量算出項目区分一覧表

| 区 分 項 目 | 柵高 | 規格 | 材料 | 支柱 間隔 | 基礎 型式 | 単位 | 数量 | 備 考 |
|---------------|----|----|----|----------|----------|----|----|-----|
| ネットフェンス工 (本体) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | m | | |
| ネットフェンス工 (扉) | ○ | ○ | ○ | × | × | 組 | | |

(注) 構造物設置の場合の箱抜き又は、アンカーブロック基礎の場合の床掘、埋戻しは別途算出する。

① 柵高、規格区分

「ネットフェンス工 (本体)」の柵高、規格による区分は、下表のとおりとする。

| 柵高区分 | 規格区分 |
|-------|--------|
| 1. 0m | A-I型 |
| 1. 2m | A-II型 |
| | B-I型 |
| 1. 5m | A-III型 |
| | A-IV型 |
| | B-II型 |
| | B-III型 |

「ネットフェンス工 (扉)」の柵高、規格による区分は、下表のとおりとする。

| 柵高区分 |
|-------|
| 1. 0m |
| 1. 2m |
| 1. 5m |

| 規格区分 |
|--------|
| ネット式片開 |
| ネット式両開 |
| 格子式片開 |
| 格子式両開 |

② 材料区分

材料による区分は、下表のとおりとする。

| 材料区分 |
|----------|
| ビニル被覆製 |
| 亜鉛メッキ製 |
| メッキ着色塗装製 |

(注) 格子式片開及び格子式両開の場合は、材料による区分は行わない。

③ 支柱間隔区分

支柱間隔による区分は、下表のとおりとする。

| 支柱間隔区分 |
|--------|
| 1. 2 m |
| 1. 5 m |
| 1. 8 m |
| 2. 0 m |

④ 基礎型式区分

基礎型式による区分は、下表のとおりとする。

| 基礎型式区分 |
|------------|
| 構造物設置 |
| アンカーブロック設置 |

2) 参考図

柵高、規格、支柱間隔等は「土地改良工事積算基準（土木工事） 2. 共通工 ②ネットフェンス工 4. 参考図」を参考とする。

(2) ネットフェンス撤去工

ネットフェンスの撤去を行う場合に適用する。

1) 数量算出項目

必要延長または必要箇所を区分ごとに算出する。

表4-20 数量算出項目区分一覧表

| 項目 \ 区分 | 柵高 | 規格 | 基礎状況 | 処分方法 | 単位 | 数量 | 備考 |
|---------|----|----|------|------|----|----|----|
| 撤去(本体) | ○ | ○ | ○ | ○ | m | | |
| 撤去(扉) | × | ○ | × | ○ | 組 | | |

① 柵高、規格、基礎状況区分

柵高、規格、基礎状況は、下表で区分する。

| 項目 | 柵高 | 規格 | 基礎状況 |
|--------|----------|----------|----------|
| 撤去(本体) | 1.0m | A-I型 | 構造物 |
| | | | アンカーブロック |
| | 1.2m | A-II型 | 構造物 |
| | | | アンカーブロック |
| | 1.5m | B-I型 | アンカーブロック |
| | | | 構造物 |
| | | A-III型 | アンカーブロック |
| | | | 構造物 |
| A-IV型 | | アンカーブロック | |
| | | 構造物 | |
| B-II型 | アンカーブロック | | |
| B-III型 | アンカーブロック | | |

| 項目 | 規格 |
|-------|--------|
| 撤去(扉) | ネット式片開 |
| | ネット式両開 |
| | 格子式片開 |
| | 格子式両開 |

① 材料処分方法区分

材料処分方法は下表で区分する。

| |
|------|
| 処分方法 |
| 廃棄 |
| 再利用 |

